〔編集後記〕

中山俊憲学長が，2023（令和５）年11月２日（木）に病気のため，ご逝去されました（享年64歳）。中山学長は，免疫学の権威として，2001年から，千葉大学教授にご着任され，その後，2015年から，医学研究院長・医学部長を経て，2021（令和３）年４月から千葉大学学長にご就任され，千葉医学，並びに千葉大学の発展に，多大な貢献をされました。心から哀悼の意を表します。

皆様の多大なご尽力により，今回，お届けいたします本号では，2023年２月27日に行われた麻酔科学　磯野史朗先生の最終講義の内容が掲載されています。『「手術室の内科医」として患者さんの安全を見守る』麻酔科医の臨床としてのご活動，世界的に有名な閉塞性睡眠時無呼吸症のご研究の歴史，最新のベッドセンサーシステムの開発まで，幅広い先生のご活動をお話しいただきましたご聴講の内容を，あらためて本号で読み返しまして，感動がよみがえる思いでした。

杉田克生先生らの医学用語語源対話Ｘが掲載されています。今回は，神経学用語の語源の概説で，対談形式で読者に伝わる内容となっており，非常に興味深く拝読いたしました。

第12回臨床研修報告会は，2023年３月２日に開催され，45題から成ります。千葉泌尿器同門会学術集会は，本年は１月と７月，計２回開催され，第47回が12題，また第48回が６題から成ります。どちらも本会例会として開催され，非常に活発で大変興味深い内容と存じます。

千葉医学会奨励賞を受賞された循環器内科　八島聡美先生の心臓CTのご研究の論文もございます。また，2022年度の猪之鼻奨学会研究助成金研究報告の６題が掲載されています。今後のさらなる研究の発展を願っております。

そして，12月８日開催予定の第98回千葉医学会学術大会が，脳神経内科学の服部孝道先生と桑原聡先生の講演抄録が掲載されています。どのようなお話をお聞きできるのか，大変楽しみです。

Chiba Medical Journal（CMJ）のOriginal Articleは，千葉リハビリテーションセンターのTatsuki Kobayashi先生らによる，脳性麻痺の患者の短下肢装具の修復に関する研究論文です。また，成田赤十字病院脳神経外科のMarina Sakata先生らによる，脳室ドレナージ術の２症例の報告に関する論文があります。

以上，今号も大変充実した内容です。今後も，千葉医学，CMJの発展のために，会員の先生方から，貴重な論文（原著論文，原著短報，症例，総説，学会記事，他の種類の論文）のご投稿をいただけますように，どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて，去る2023年10月26日に第278回千葉医学会編集委員会を対面で開催させていただきました。私が前任の白澤　浩先生から，編集委員長の重責をバトンタッチさせていただきましてから，コロナ禍の間は，開催できませんでした。編集委員会では，委員の先生方と，千葉医学，CMJの現状とこれからについて，白熱した議論を行わせていただきました。実は，2024年（令和６年），千葉医学は記念すべき100巻を迎えることになります。そして，千葉大学医学部は，2024年に創立150周年を迎えます。1874年（明治７年）に，ルーツである共立病院が地域住民等の醵金により建てられて以来，明治，大正，昭和，平成，令和の長い歴史があります。会員の先生方からも，千葉医学，CMJのこれからにつきまして，雑誌編集事務局のメールアドレス：info@c-med.orgあてまで，ぜひともご意見をいただけますれば，幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（編集委員長　清水栄司）